



初等部だより 1月号

鎌倉女子大学初等部

令和2年1月8日

第11号

明けましておめでとうございます

部長 勝木 茂

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく願いいたします。

子どもたちをはじめ、保護者の皆様にとって、健康で安全なよりよい一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

さて、令和二年（2020年）、4月より改訂された小学校学習指導要領が全面施行となります。初等部では、外国語科（英語科）の実施をはじめ、2年前より内容の一部先取りをはじめ様々準備をすでに終えているところです。今回の学習指導要領改訂のポイントはいくつかありますが、わたしは、その中でも「何ができるようになるか」を明確化しようとしている点に注目しています。

文部科学省「幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」には次のように記述されています。（以下、下線部は上記改訂のポイントより引用）知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の3つの柱で再整理。

つまり、これまでの学習指導要領の中心であった「何を学ぶのか」だけでなく「何ができるようになるか」を明確化しようとしていることです。例えば、「英語」も単なる暗記的な知識の量を増やすだけではなく、学んだ知識を活用しながら「何ができるようになるか」が大切であるということです。そうなってくると「どのように学ぶのか」という学び方も重要になってきます。この点についても今回の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」という視点が示されています。

もちろんこれらはすべて、もうすでにはじまっている予想のつきにくい変化の激しい時代を生き抜き、社会の中で活躍できる資質・能力を育て、一人一人が自分の能力を発揮し、その人が幸せに生きるための力を身に付けて

いくためのものです（いわゆる生きる力）。

このように考えていくと「何のために学ぶのか」という学習の意義を子どもたち自身が感じることで、理解することは今まで以上に大切なこととなります。しかしこのことは、今の子どもたちの状況をみているとそれほど簡単なことではないかもしれません（初等部生だけということではありません）。もちろん指導者側の教師は、学習の意義を感じ、理解できるように、授業内容や方法をはじめ教材の取扱い等において、工夫と改善が必要であることは言うまでもありません。

しかし、同時に学ぶ側である子どもたちの学習への動機付けに関する環境をよくしていくことも大切であると考えます。つまり「やらされている」「やらなくてはならないからやっている」から「やりたくてやっている」という内発的動機付けの部分を増やしていくということです。これは簡単なことではありませんし、大人も含め日常的に外発的動機付けで行動することは多いと思います。また、外発的動機付けから内発的動機付けに変化していくこともよくあることです。学習をすべて内発的動機付けでやることは不可能だと思います。しかし、「主体的・対話的で深い学び」を成立させるためには、その部分を少しずつ増やしていくことは必要だと思います。

「楽しいからもっとやりたい」「おもしろいから、またやりたい」「この先はどうなるのか自分で調べてみよう」……。今年一年、そのような初等部生が増えることを期待しています。

本日、第3学期始業式を実施いたしました。式では、これまで同様に「初等部のみんなが互いに“思いやり”をもって仲良くしていこう」という話をしました。“思いやり”は本学が大切にしている建学の精神「感謝と奉仕に生きる人づくり」にも通じることです。本年も、建学の精神を根本とし、日々の教育活動を充実させていきます。これまで同様、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。